

バレエで 地元を元気に

ほんだまゆこ
本多真佑子さん
(広崎4町内)ーバレエダンサー



1



2



3

幼少期から 夢はバレリーナ

念願のスタジオを オープン

6歳の時に始めたバレエ。「体に密着するタイツを履くのが苦手で、誘われても断っていました」が、友達の発表会を見て私もやりたいと思いましたが「と本多さんは当時を振り返ります。プロのバレエ団で修業して、地元で指導者になりたい。そんな思いを胸に高校卒業後、東京を拠点に活動するバレエ団「シャンプルウエスト」に入団し、5年間全国各地で公演を行いました。

「体づくりのアドバイスもできるような」とスポーツフードアドバイザーの資格を取得後、指導者になるため退団。しかし、帰郷した5日後、熊本地震に見舞われました。グランメッセに避難していた時は、周りで車中泊していた人たちに声を掛け、一緒にバレエのストレッチをしてエコノミークラス症候群の予防に努めたそうです。

その後、未曾有の災害にも屈せずバレエスクールを開校。熊本市、八代市、水俣市で指導を始めました。

1 舞台上で華麗に舞う本多さん(本多さん提供写真)

2 生徒のバレエが大好きという気持ちを大切にするレッスン(本多さん提供写真)

3 11月20日の公演を前に町長を表敬訪問

今年8月、熊本市に開いたバレエスタジオ「キャンディのスタジオ」には、0歳から70歳代まで約30人が在籍。町内からも多くの生徒が通います。「技術だけでなく、表現力や思考力をつけ、バレエが成長につながればと思っています。実際にバレエを始めて、学校で積極的に発言するようになった生徒もいます」とうれしうな本多さん。学業との両立に苦戦した自身の経験を生かし、レッスンやお迎えまでの時間を有効に活用できるように、スタジオには学習スペースも完備しています。

今月20日、文化庁の事業として嘉島町で開催される「シャンプルウエスト」の公演に、元団員として出演予定。「いつか益城町でも公演をしたい」と熱い気持ちを語りました。